

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	農地・水・環境保全向上対策事業	会計	一般会計	事業No.	554	施策順No.	11-065	
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-1-7-33-1			
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	土木課			
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	19	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	環境保全活動が必要な農地及び農業用施設 農業振興地域内の農業従事者及び周辺に居住する市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		農振農用地面積:ha		3240	3202	3202	3202	
	意図	農村環境を、多様な主体と共に地域ぐるみで考え、現在以上の共同活動を行い、農地の保全を図る。 環境負荷を低減する農法の支援により、地域ブランド力を高め販売力を増加する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	環境保全活動を行なっている農振農用地面積:ha	48	48	48	48	48	48	A
	先進的な営農活動を行なっている農振農用地面積:ha			20	20	20	20	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価あり】	目標の面積が達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1)効果の高い共同活動への支援 社会共通資本である農地・農業用水等の資源を適切に保全し、質的向上を図るため、地域ぐるみで効果の高い活動を実施する地域を支援する。(制度:5カ年) 2)営農活動への支援 化学肥料や化学合成農薬の使用を大幅に低減するなど、地域でまとめて環境負荷を低減する先進的な営農活動を支援する。(制度:5カ年)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	農地・水・環境保全向上対策事業 (1)共同活動支援交付金 (2)営農活動支援交付金	(1)共同活動地区数 (2)営農活動地区数	(1)2地区(南原、座光寺) (2)1地区(座光寺)
23年度実施計画	農地・水・環境保全向上対策事業 (1)共同活動支援交付金 (2)営農活動支援交付金	(1)共同活動地区数 (2)営農活動地区数	(1)2地区(南原、座光寺) (2)1地区(座光寺)

3 事業コスト

事業費	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)農地・水・環境保全向上活動推進交付金
	特定財源	国庫支出金				
		県支出金	100	100	100	
		起債				
		その他				
	一般財源	600	542	600		
	計(A)	700	642	700		
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		0			
	トータルコスト A+B		642			

4 事業に対する市民や議会の意見

過疎化や農家の高齢化等の進展により、農業者による農業用施設の保全管理が困難になってきている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	国民共有の財産である、農地・農業用水等の資源や環境を、次の世代に良好な状態で引き継いでいける。 →事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムツ指標	既存農業者の生産額(農業):億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	農地・農業用水等の資源を適切に保全し、質的向上を図るため、地域ぐるみで効果の高い活動を実施する地域を支援した。地域でまとまって環境負荷を低減する先進的な営農活動を支援した。		
	後期に向けた課題	より多くの団体が実施できるように、補助金の要望をする。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	特になし。		
	後期に向けた課題	特になし。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	適切だった。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	①意欲のある農業経営者自らが、農業施設の整備を実施した。②事務の手伝いと指導。		
	後期に向けた課題	特になし。		
全体を通じて	4年間の振り返り	農地・農業用水等の資源を適切に保全し、質的向上を図るため、地域ぐるみで効果の高い活動を実施する地域を支援できた。地域でまとまって環境負荷を低減する先進的な営農活動を支援できた。		
	後期に向けた課題	過疎化や農家の高齢化等の進展により、農業者による農業用施設の保全管理が困難になってきている。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------